

ロザン 宇治原史規さん

[お笑いタレント]

京都大学卒業の高学歴芸人としてクイズ番組等に出演される機会も多い宇治原史規さん。とても真面目だった小学校時代や、お笑いの道を目指すきっかけになった生徒会選挙での思い出、小学校教育に対して思うことなどを聞かせていただきました。

「マジメ」を絵に描いたような カチカチの小学生時代

子どものころの僕は、とにかくマジメ一直線。例えば、小学校に入学したとき、「座ったときの正しい姿勢」を教わりますよね。「机と椅子の背もたれからこぶし一つ分空けてまっすぐ座り、ノートや教科書は目から30センチ離して読む」というやつです。僕は宿題をするとき、毎回物差しで自分の目とノートの間を測り、それを忠実に守っていました。

また、両親から「人の話を聞くときは、相手の目を見て聞きなさい」と教わっていたので、授業中はいつも先生の目を見ていました。あるとき先生から、「授業中に目が合うのは、宇治原一人だけだ」と言われて、「エッ、みんな、授業中にどこを見ているの？」(笑)と、ビックリしたことがあります。

夜寝る前には、次の日の時間割の順にノートと教科書をそろえてランドセルに入れ、枕元に次の日の服をたたんで置くのが習慣になっていました。今振り返っても、自分の徹底したマジメぶりには感心してしまいますね。

生徒会の選挙落選が お笑いの道へのきっかけに

そんな「マジメ人間」の僕は、4年生のときの生徒会の選挙に、自ら立候補しました。「自分以外に誰が役員になるんだ」と思って。当然、当選するものだと確信していました。

しかし、結果は落選。マジメ＝正しい、正しいことはみんなに評価される、そ

んな価値観をもっていた僕は、「たとえ大マジメにやっても、うまくいかないことがあるんだ」と思い知りました。初めての挫折体験だったかもしれません。

5年生では生徒会長に立候補したのですが、これも落選しました。当選したのは、演説で大失敗をして、体育館を爆笑の渦に巻き込んだ子でした。そのとき「ああ、みんな、選挙だからってよく考えて選んでいるわけじゃないんだな」と気づいて、そんなことに真剣に取り組んでもバカバカしいなど、一気に気持ち冷めました。

このとき僕は、四角四面な考え方の「角」が少し取れた気がします。肩の力が抜けて、遊び心が芽生えてきたのでしょう。この体験が、お笑いの道へ進む原点と言えるかもしれません。

あのとき、もし当選していたら、僕は今ごろどうなっていたでしょうね。まさか、政治家かなあ？(笑)

全員を一律に扱うことは 本当にいいのか

小学校の教室の後ろには、絵や習字など、クラス全員の作品が貼り出されていますね。僕はいつも、「全員の分を貼り出さなくても、優秀な作品だけでもいいのに」と思っていました。

子どもをみんな平等に扱うことは非常に大事だと思いますが、それは、実は、誰のこともほめていないのと同じではないでしょうか。よい作品を作ることができた子はしっかりと評価し、選ばれなかった子には「今度は、後ろに貼られるように頑張ろう」と励ませばいいのではないのでしょうか。

僕は、子ども自身が、「何ができるか」に気づくことも大事だと思いますが、「何ができないのか」、自分の限界を知ること、同じくらい大事だと思うのです。くやしい思いをすることはつらいかもしれませんが、自分の成長につながります。全員横並びにするのは、その機会を奪ってしまう気がします。

時には学ぶ側で、「楽しむ」姿勢を 子どもたちに教えよう

先生は、授業以外の仕事も多く、とても大変だと思います。最近はそのに加えて、小学校ではプログラミングや英語、中学校ではダンスなどの授業が必修となりました。

ですが、そこで「とてもやっつけられない」と投げやりになるのは、精神的にも時間的にも損をするだけです。

僕は、たとえ気が進まないことでも、やると決まったら、「どういう風にすれば楽しくなるか」だけを考えるようにしています。「やらされている感」にさいなまれるより、少しでも前向きにやってみたほうが、後々すごく楽しいことが起こるかもしれません。何事も楽しんでほうが得です。

先生方も、新しいことに取り組むときは、子どもたちと同じ「学ぶ立場」に立ってもいいと思います。そして、楽しみながら学ぶ姿を、子どもたちに見せてあげればいい。先生だから何でもできなければいけないわけではありません。どんな仕事だって、失敗したらすべておしまいということはないのです。そう考えれば、少しは気持ちの余裕ももてると思います。

PROFILE

うじはら ふみのり●1976年大阪府生まれ。4歳のときに広島市に転居し、中学3年生で大阪に戻る。京都大学法学部卒業。1996年8月、大阪教育大学附属高校天王寺校舎で同級生だった菅広文とお笑いコンビ「ロザン」を結成。舞台・ライブでコントや漫才を披露するほか、クイズ番組や、情報・教養番組のコメントーターや司会としてテレビやラジオにも数多く出演。また、受験などに関する講演やトークショーなどの活動も行っている。

優れたところを認め、
ほめることが子どもを伸ばす